

建設通信新聞

宮本 業界変革に全力 会長

新たな執行体制が船出

日建連

日本建設業連合会（宮本洋一会長）は4月28日、2021年度定時総会・理事会終了後に、新役員披露の席を開いた。国会議員を含め、多くの関係者に見守られる中で、日建連の新たな執行体制が船出した。

冒頭、山内隆司前会長が退任に伴ってあいさつした。就任当時は「働き方改革への対応が急務で、建設業の将来を左右する岐路に立たされていた」と振り返りながら、国のリーダーシップによって「業界全体の協調機運が醸成さ

れ、産業構造の変革につながる意義深い成果をみることで「できた」と総括。

一方、国土強靱化を背景とした堅調な公共投資予算、建設技能者の賃金水準の上昇基調といった「好循環はコロナ禍の影響で制約される懸念がある」と指摘し、「こうした逆境にひるむことなく、引き続き当会が中心となって建設業の持続可能性を確かなものにしなければならぬ」と強調した。

建設技能者の処遇改善に向けて「わたしが最も力を注ぎ、普及促進を急いだ制度インフラが建設キャリアアップシステム（CCUS）」とし、「新執行部のもと、一日も早くすべての現場での標準化を切に願う」と期待を込めた。

続いて、宮本会長は2期4年にわたって会長職を務めた山内前会長の尽力に謝意を表した上で、「副会長、役員、会員企業と一致団結して建設業のさらなる発展に向け、業界変革への取り組みを引き続き全力で推進する」と誓った。

来賓として、赤羽一嘉国土

交通相と自民党の二階俊博幹事長、公明党の山口那津男代表、佐藤信秋参院議員がビデオメッセージやオンラインで祝辞を寄せた。

赤羽国交相は山内前会長の「かじ取りに触れつつ、「宮本会長にはわが国建設業のさらなる発展に向けて、卓越したリーダーシップを大いに発揮してほしい」と述べた。

その上で、国交省としてCCUSの普及、21年でのおおむね2%以上の建設技能者の賃金上昇、その根幹となるダンプینگ（過度な安値受注）対策を推進し、「建設業従事者が誇りと希望を持って国土を守り、形成する。そういった魅力ある建設業で働き続けられるよう、業界団体と連携しながら、これらの施策にしっかりと取り組んでいく」と意欲を示した。



足立議員に参院選
職域代表の推薦状
また、会合では宮本会長が足立敏之参院議員に対し、来夏に予定されている参院議員通常選挙（比例代表）の職域代表候補者としての推薦状を手渡した。写真。

これを受け、足立議員は「佐藤議員とタッグを組んで両輪で、公共投資予算の確保や関連する法律の整備、働き方改革など、建設業産業のために活動を進めたい」と意欲を示した。